

当館が認知した主な犯罪の事例（7月～9月）

以下は、当館が最近認知した特徴的な犯罪の手口です。

※ 特に断りがない場合、実際に邦人の方が被害に遭った（若しくは未遂）の事例です。

1. スリ、置き引きの被害

【事例1】

ベルギーからケルンに向かってICEで移動中（車内はほぼ満席状態）、席に座っていると、突然見知らぬ男が通路から身を乗り出してきて、自分のすぐ目の前（顔の直近）でおもむろに携帯電話を操作しました。男はほどなくしてブツブツ言いながら立ち去ったが、男がいなくなってすぐに頭上の棚においていたバックがなくなっていることに気がついた。周囲の人に聞いたところ、先ほどの男に気をとられている間に別の男が盗んでいったことがわかった。

同車両の自分と離れた場所には同僚も乗車していたが（アジア人）、関連は判然としないものの同僚も同じタイミングで棚の上においていたバックを盗まれていることが判明。

【事例2】※メッセ関係者の邦人被害多数

エッセンで開催中のメッセに参加するため同中央駅で乗り換えたころ、背負っていたバックが一部空いていることに気がつき、中に入れていたパスポートケースが盗まれていることがわかった。

【事例3】

旅行で当地を訪れた親族2人がインマーマン通りを歩いていたところ、マメに後ろに手を回しリュックの状態を確認していた片方がリュックのファスナーが開いていることに気がつき立ち止まった（中には雑貨品などしか入れておらず被害なし）。人通りがそれほど多くない中、その直後に外国人男性2人組が不自然に2人を追い越すように同所を離れようとしたことから呼び止めたところ、「何もしていない」というようなそぶりを見せ、同2人組は足早に立ち去っていった。

2. 侵入窃盗

【事例4】※邦人被害ではないが、報道で認知した手口

アパートに作業員を装う男が来訪。家人がドアを開けたところ、男はシャワーヘッドを確認した後、寝室等も案内するように催促。家人が不審に思い問いただしたところ、家人がしていた指輪等を奪って逃走。

アパートに「隣の住人にメッセージを伝えてほしい」などとするカップルが来訪。家人がドアを開け話を聞いたところ、二人は勝手にアパート内に侵入。家人ともみ合いになり逃走。

※ 正当な来訪者であると確信が持てない場合には、絶対に屋内に招き入れないでください！

3. その他

【事例5】詐欺メール

ベルリンにある弁護士事務所の弁護士（実在）から、「あなたが過去に行ったダウンロードは違法な行為。8月15日までに下記のURLにアクセスし必ず手続きを行うこと、旨のメールが入った。身に覚えがなかったことから不審に思い、ネットで同弁護士名を検索した結果、同様の詐欺メールが出回っていることを把握して被害には至らなかった。

【事例6】詐欺電話 ※同種未遂事件を複数認知

日系企業社員の携帯電話に対し、「社長の〇〇です」と電話が入る（携帯電話には本社の所在地が表示され、本社の本物の電話番号が表示）。一般的な近況等の話題の後、「実は極秘にすすめている買収案件がある。前回は事前に情報が漏れてご破算になった経緯があることから、絶対に他言しないでほしい」として、海外拠点からこの買収費用を一時的に立て替えること、電話をつないだままこれから伝える弁護士にメールすること、との指示がある。対応者は、本社の電話番号が表示はされていたものの、この種詐欺の注意喚起を思い出し、落ち着いて、「このまま対応することはできない。いったん電話を切ってこちらから折り返す」と何度か伝えたところ、「また連絡する」として断電、被害を免れた。

犯罪に巻き込まれた場合は、まずご自身の安全を確保した上で、その場から速やかに110番通報または最寄りの警察署に被害の届出を行ってください。